

資料 4

切れ目のない支援の引継ぎの
仕組みづくりについて

現状・課題

成人期まで使える情報共有ツールが無い
 所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである
 新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

めざす姿

当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある。

各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある。

取組方針

- [1] ライフステージの移行時や支援機関(者)等がかかわる際の、支援の引き継ぎ状況、課題等について、自治体調査及び医療・福祉・教育・就労等の関係機関への聴取りを実施し、実態把握、要因分析を行う。
- [2] 本市の現状について把握し、多角的な視点からの分析を行うため、本人・保護者のニーズを調査するとともに、各ライフステージで支援に携わる関係機関等に対して、意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。
- [3] 【1】及び【2】の結果をふまえ、共有すべき「情報」支援内容を整理し、「情報共有ツール」の内容を検討する。
 地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する。

取組み内容

【1】（平成29年度）：自治体調査の実施

【調査先・調査方法】

都道府県・政令市・・・調査票による調査

医療・福祉・教育・就労等の関係機関・・・発達障がいのある方に関わる各機関の実務者等で構成された連絡協議会での聴取り

調査を通じた支援の引継ぎの
 重要性に関する理解の促進・共有

【2】（平成30年度）：本人・保護者・関係機関等への調査の実施

【調査先・調査方法】

本人、保護者、保育所・幼稚園(公立・私立)、公立学校(小・中・高)、特別支援学校、専門学校、短大・大学、企業、障がい福祉サービス・障がい児支援事業所等、児童養護施設、医療機関、区、こども相談センター。

調査先に合わせて各調査票を作成し、調査実施。

【3】（令和元年度～）：情報共有ツールの内容の検討、支援の引き継ぎのための仕組みづくりの検討

共有すべき「特性・ニーズ等の情報」、「支援内容」を整理し、「切れ目のない支援の引継ぎ」を補完するための「情報共有ツール」の作成を検討。
 地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～情報共有ツールを活用した仕組み～

～平成30年度 本人・保護者・関係機関等への調査結果について～

調査目的

切れ目のない支援の引き継ぎの仕組みづくりについて、多角的な視点からの分析を行うため、平成29年度の全国の自治体調査等に引き続き、平成30年度においては、本市の現状把握のために、本人・保護者のニーズ調査とともに、発達障がいのある方が各ライフステージで関わる市内の支援機関等に対して、支援に携わる現場の意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。

調査結果

本人・保護者・関係機関等への調査は、複数の選択肢から当てはまるものを選ぶ「選択肢形式」と、思ったことや具体例を自由に記述する「自由記述形式」を併用して行った。

自由記述の回答には、より具体的な内容が記載されていたり、調査者が見落としていた視点について記載されていることから、選択式形式の回答のみでは、より具体的ニーズが十分に把握できない可能性がある。

情報共有ツールの活用希望、事前に情報提供がなかった場合に困ったこと等、生活場面が新たな環境に移る時の引継ぎの際にどのような内容・事項等の情報があれば役立つと思うかについて選択肢形式で尋ねたところ、保護者・関係機関等とも回答に共通した傾向がみられた。

そのため、情報共有ツールの主な利用者となる保護者を中心に、自由記述欄の回答分析を行い、情報共有ツールの内容検討の一助とする。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～情報共有ツールを活用した仕組み～

～平成30年度実施調査【保護者用】自由記載内容の分析～

1 ライフステージに応じた情報提供が必要

保護者の困りごと等

気づいて

- ・何をどこに相談すればよいかわからない
- ・診断を受ける先がどこかわからない
- ・受診を決めかねている

自ら動き出して

- ・早い段階でいつ何をしよう準備した方がよいのか具体的な見通しを知りたい

グレーと言われて

- ・楽観的に解釈して相談に行かなくなった
- ・イメージが不明確なため子育ての方針が立てにくい

おとなになって

- ・19歳で診断されたが、どうすればよいかわからない
- ・社会的自立のために情報共有ツールを活用したい
- ・親亡き後のことが心配

必要な情報

気づいて

- ・区や地域の相談窓口、ライフステージごとのアクセス先など

自ら動き出して

- ・療育、福祉サービス、講座、就学・進学相談、就労相談等の社会資源の詳細

グレーと言われて

- ・相談対象者の特徴を整理し理解できるような項目
- ・具体的な支援方法

おとなになって

- ・就労だけでなく生活を含めた人生最後まで包括的支援に関すること

～平成30年度実施調査 分析～

2 保護者と専門分野の異なる支援者間での理解・共有の困難性

入園、就学など環境が変化する場面では、医療・福祉・教育の支援者間で情報の引継ぎが必要となる。専門性が異なる支援者間では情報共有が円滑に進まず、本人の特徴への理解・共有が困難である。

主な意見

- ・ 事前に情報共有していただくことで新たな環境でも続きからの支援をスタートしてもらえる。
保育園入園時、区の担当者が本人の特徴や支援方法などを説明してくださっていたので、比較的スムーズに保育園生活をスタートできた。
- ・ 入園時だけでなく、懇談の時にも具体的な目標・経過を確認できる書式の情報共有ツールを参照しながら話せると、先生方が情報を共有して実施していることや本人の様子がお互いに共有しやすいのではないかと思う。
- ・ 周知された「大阪市の公式情報共有ツール」があれば、公に活用され、支援者や先生方との情報共有がスムーズになるのではないかと思う。
- ・ 個人情報保護の問題はあると思うが、公の機関間や公の機関と他の支援機関との間で情報を共有しておいてもらえると、相談先が変わる時に一から説明せず済むので助かる。
- ・ 進学にあたり、書面だけでなく、関係者で話し合い、在籍園と入学先での本人の様子を見る、という形で引継ぎをしてもらえたので、入学後にスムーズに支援してもらえた。
- ・ 進学時などに障がい特性、得意・不得意、興味のあることなどを伝えておくことで、本人も安定していたように思える。
- ・ 「大阪市の公式情報共有ツール」があれば、通常学級在籍児も進学時の引継ぎに活用できるのではないかと思う。
- ・ デイサービスなどの本人が関わっている機関については、保護者からの情報でしか知ることができない。

～平成30年度実施調査 分析～

3 環境変化の場面での困難性と情報共有ツールの必要性

ライフステージ(一生)の中で生活環境が変化する場面は多く、その都度本人の特徴の説明が必要となる。よりスムーズな情報共有に役立ち、ライフステージを通して使える情報共有ツールが望まれている。

主な意見

- ・ 就学・進学、児童デイ、習い事、スペシャルオリンピック等いろいろな場面で役に立った。
- ・ 就学・進級など環境が変わるたびに、相談先が変わるたびに、一からいちいち口頭で説明しなければいけなかったが、サポートブックを活用することで説明が楽になった。
- ・ 支援者が変わってもスムーズにサポートしてもらえる可能性が高いと思う。
- ・ 事前に情報提供があれば、支援体制がとれ、適切な支援ができる。
- ・ ライフステージを通じて使い続けられるものが望ましい。

4 情報共有ツールは啓発活動の機能もあわせ持つ

情報共有ツールは、発達障がいへの啓発の要素を多く含んでいる。

主な意見

- ・ 情報共有ツールの使い方の勉強会を開催して、保護者だけでなくいろいろな立場の方に普及してほしい。
- ・ 「公式の情報共有ツール」を学校や地域(回覧板など)、区の母親学級などで周知していただくことで、発達障がいについて周囲の方にコミングアウトしやすくなるのではないかと思う。
- ・ 具体的な支援方法が盛り込まれていると助かる。

～平成30年度実施調査 分析～

5 情報共有ツールの具体的な内容

情報共有ツールは、誰にでもわかりやすい表現、作成・活用がしやすい書式・量であること。
作成の際に専門家の助力が必要。

主な意見

- ・ 作成の仕方、使い方について、先生や支援者から助言を得たい。
- ・ なるべく利用する人がわかりやすい表現やことば(専門用語は難しく、理解しにくい)。
- ・ 統一された形式・項目であれば、誰でも必要な情報を網羅することができる。
- ・ 大きさはA4サイズが望ましいが、携帯するにはA6サイズがよい。
- ・ ページ数が多すぎると記入や確認するのが大変。
- ・ 形・量は、年々増えていってもよいと思う。ファイルなどにその時必要な情報を集約したり、パソコンで管理し、必要に応じてプリンアウトするという方法も便利ではないか。

6 今後の検討等

各ライフステージを通じて情報共有ツールを主に利用しているのは保護者である。保護者調査において、情報共有ツールが「役立つ」と回答した人は約83%であったことから、情報共有ツールは有効であるといえる。

情報の共有や引継ぎは、就学・進学だけではなく、障がい福祉サービス事業所、習い事、行事など生活場面が新たに変わる場面で利用することになるが、保護者調査の回答者のうち、本人の年齢が小学生以下の人は約77%であったことから、まずは、幼児期から学齢期に向けて引継ぎがスムーズにいくことを主眼に内容を検討していく。

情報共有ツールを普及させるためには、作成の仕方や使い方の研修会開催など、作成にあたっての支援の検討が必要。

情報共有ツールの書式や記載する内容については、保護者・関係機関等調査の回答を元に、これから検討・作成していき、その際に専門用語は難しく、理解しにくいとの意見があることから、表現方法はできるだけ平易な、理解しやすいものを心がけていく。

本人・保護者・関係機関等への調査について

1 調査概要

(1) 調査目的

切れ目のない支援の引き継ぎの仕組みづくりについて、多角的な視点からの分析を行うため、平成 29 年度の全国の自治体調査等に引き続き、平成 30 年度においては、本市の現状把握のために、本人・保護者のニーズ調査とともに、発達障がいのある方が各ライフステージで関わる市内の支援機関等に対して、支援に携わる現場の意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。

なお、令和元年度においては、平成 29・30 年度の調査結果をふまえ、共有すべき「情報」「支援内容」を整理し、「情報共有ツール」の内容を検討する。本市ニーズに即した切れ目のない支援の引継ぎのための「仕組み」を検討する。

(2) 調査対象、調査方法、回収数

調査票	調査対象	調査方法	回収数
本人用	本人	エルムおおさかの相談支援・機関支援・研修・講座等を通じて関わりのある方を中心に調査回答を依頼。郵送、電子メール、エルムおおさかのHPから回収。	7
保護者用	保護者		101
事業所等用	障がい福祉サービス等事業所 企業 医療機関 専門学校・短大・大学 私立保育園 公立保育所 児童養護施設	各所管部局を通じて、発達障がいのある方の支援に携わる支援者の方に調査回答を依頼。	150
	市教育機関用		市立幼稚園、小、中、高
府立支援学校用	府立支援学校	電子メール、エルムおおさかのHPから回収。	8
公共機関用	24区保健福祉センター (子育て支援室) こども相談センター(中央)		43
合計			337

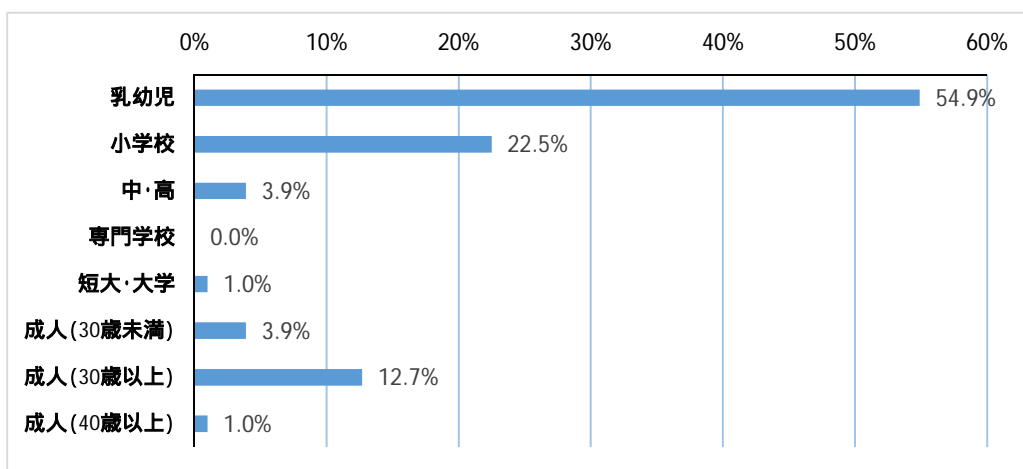
(3) 調査期間

平成 30 年 11 月から平成 31 年 1 月

2 保護者に対する調査結果（抜粋）

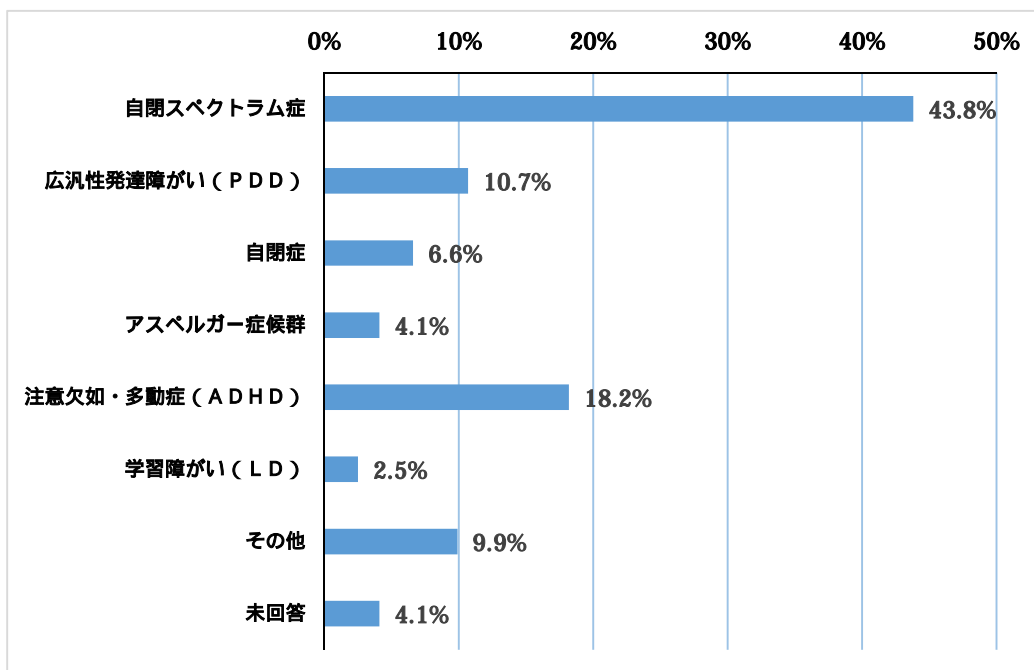
問1 お子様の年齢・状況等をお教えてください。（複数回答）

図表 2 - 1 a 年齢



(n = 102)

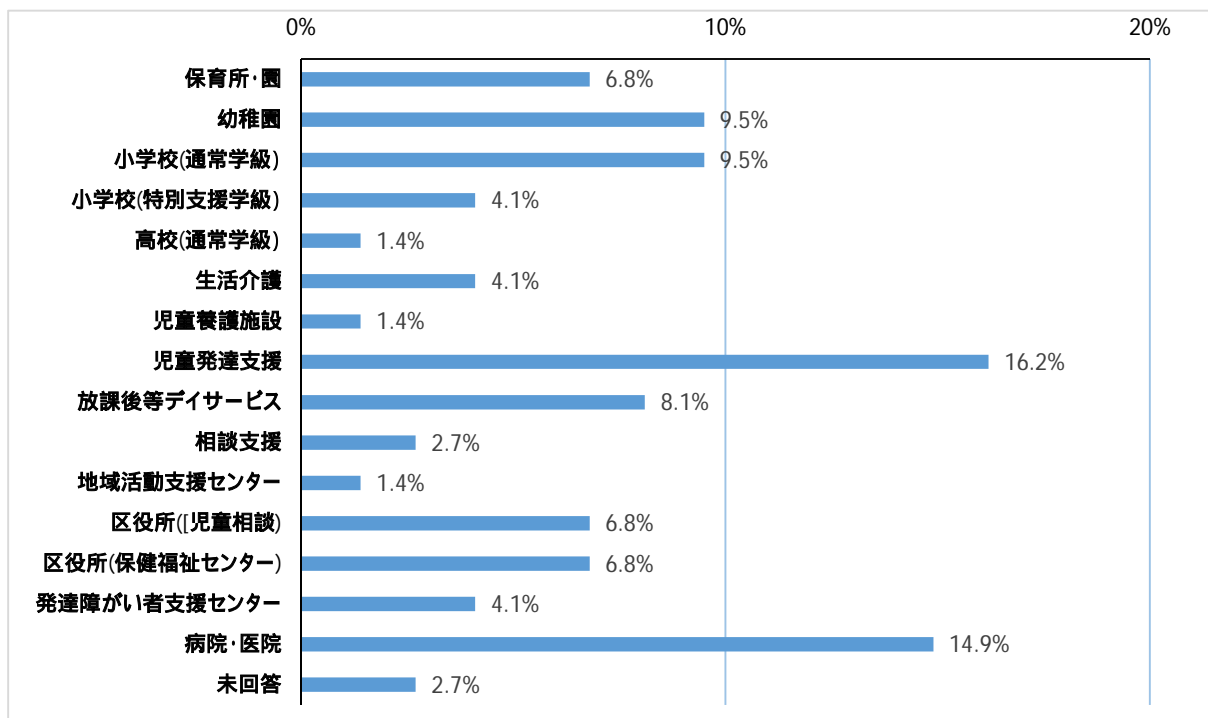
図表 2 - 1 b 診断名



(n = 121)

問4 お子様に関して相談されている機関等を、お教えてください。(複数回答)

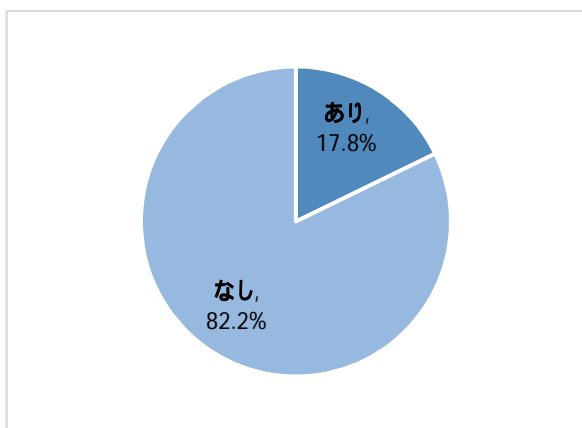
図表 2 - 4 主に相談している機関等



(n = 41)

問5 今までに情報共有ツール(サポートブック等)を使用されたことはありますか。(単一回答)

図表 2 - 5 情報共有ツールの使用

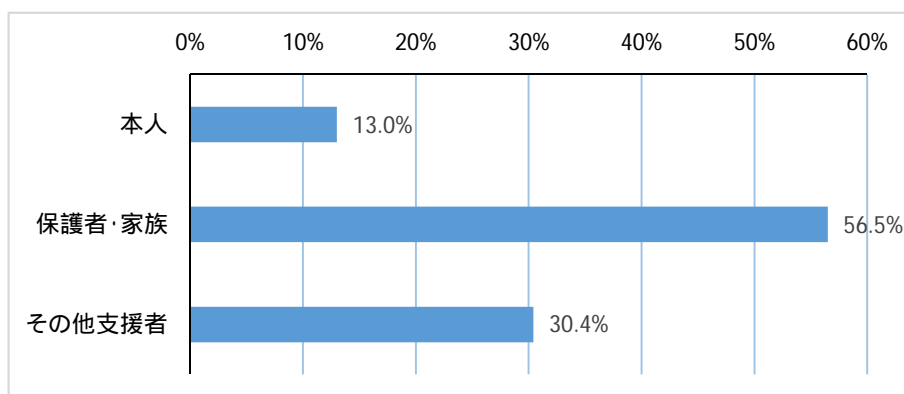


(n = 101)

問6 問5で「あり」と回答された方は、次の質問に回答をお願いします。

情報共有ツール（サポートファイル等）は保護者や支援者と一緒に作成（記載）されましたか。（複数回答）

図表 2 - 6 a 一緒に作成した人



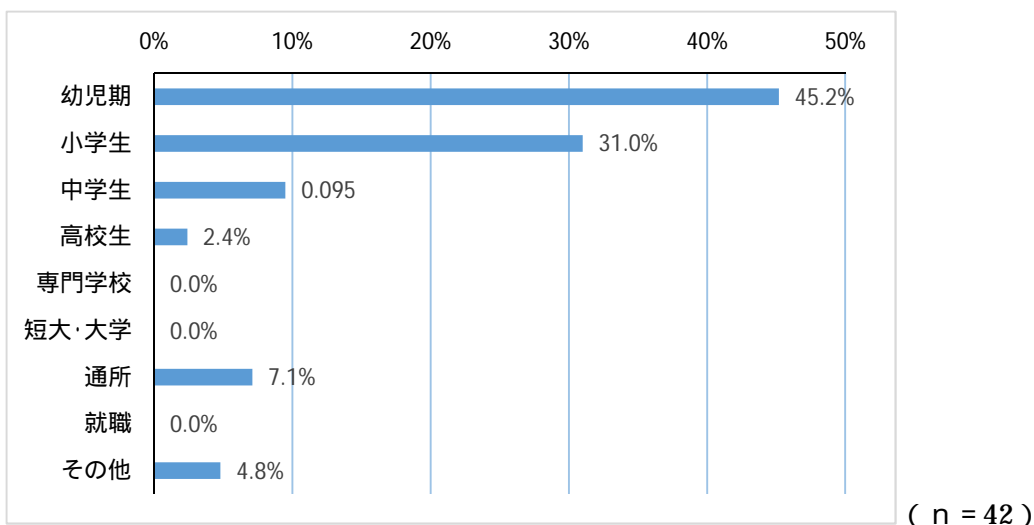
(n = 23)

図表 2 - 6 b その他支援者等の自由記載欄（主な意見）

児童発達支援の事業所の人
幼稚園の担任の先生
デイサービスの先生
相談支援の方
移動支援のために育成会が作成

問7 問5で「あり」と回答された方は、次の質問に回答をお願いします。
 利用された時期や役立ったかどうか等を教えてください。(複数回答)

図表 2 - 7a 利用した時期

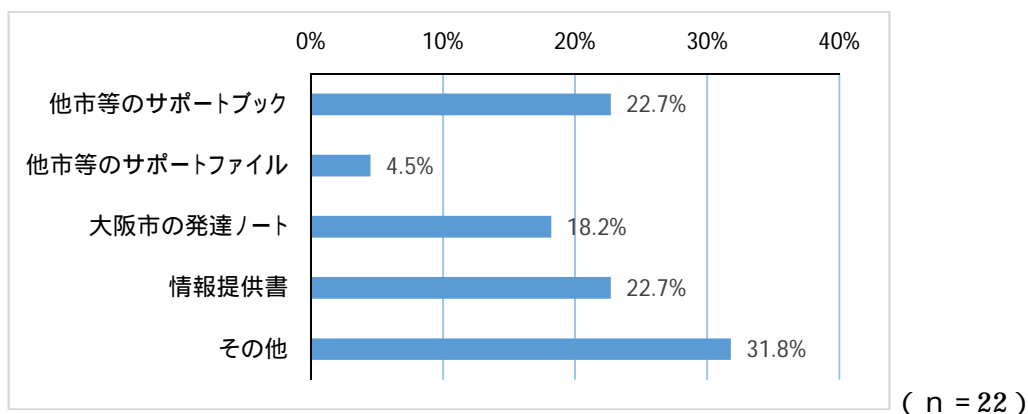


図表 2 - 7b その他の自由記載欄 (主な意見)

小学校に進学する時に作成し、学校の先生と話してもスムーズにでき非常に役立った。
 児童発達支援事業所に通うときに使った。
 習い事やスペシャルオリンピックス大会の時に役立った。
 役に立ったかどうかはよくわからない。

問8 問5で「あり」と回答された方は、次の質問に回答をお願いします。
 どのような情報共有ツールでしたか。(複数回答)

図表 2 - 8a 使用した情報共有ツール

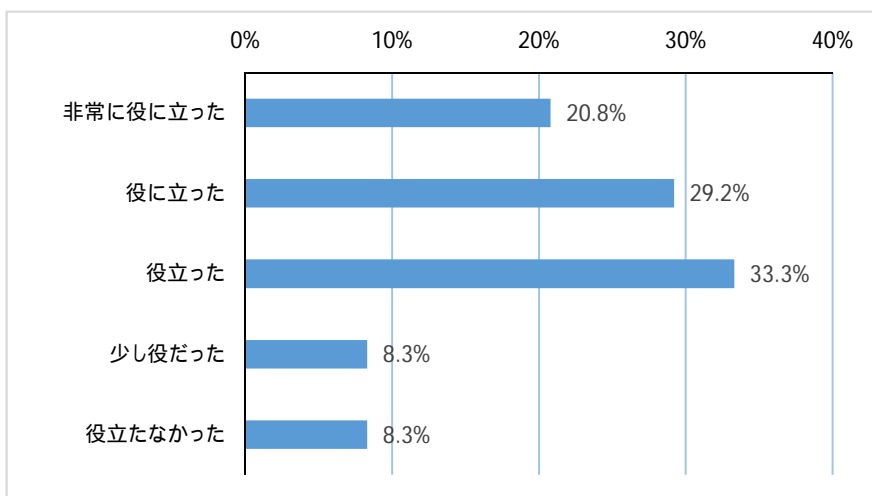


図表 2 - 8b その他の自由記載欄 (主な意見)

自分で作った。
 児童発達支援事業所のサポートブック。
 インターネットのHPから。

問 11 問 9 で「(1)あり」にチェックされた方は、次の質問に回答をお願いします。
各移行時期において、引継ぎがあったタイミングや役立ったかどうか等をお教えてください。
(複数回答)

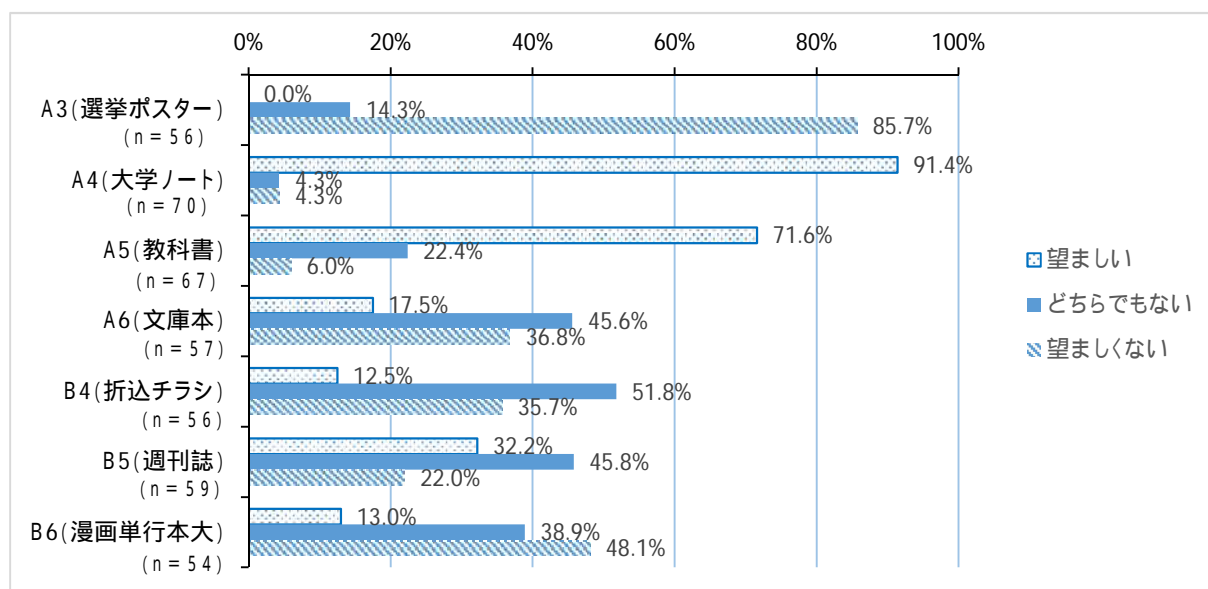
図表 2 - 1 1 役立ち度



(n = 24)

問 12 生活場面が新たな環境に移る時(移行時期)の引継ぎの際に、使用する情報共有ツールの望ましい仕様・様式をお教えてください。

図表 2 - 1 2 a 1枚当たり大きさ(紙の場合)

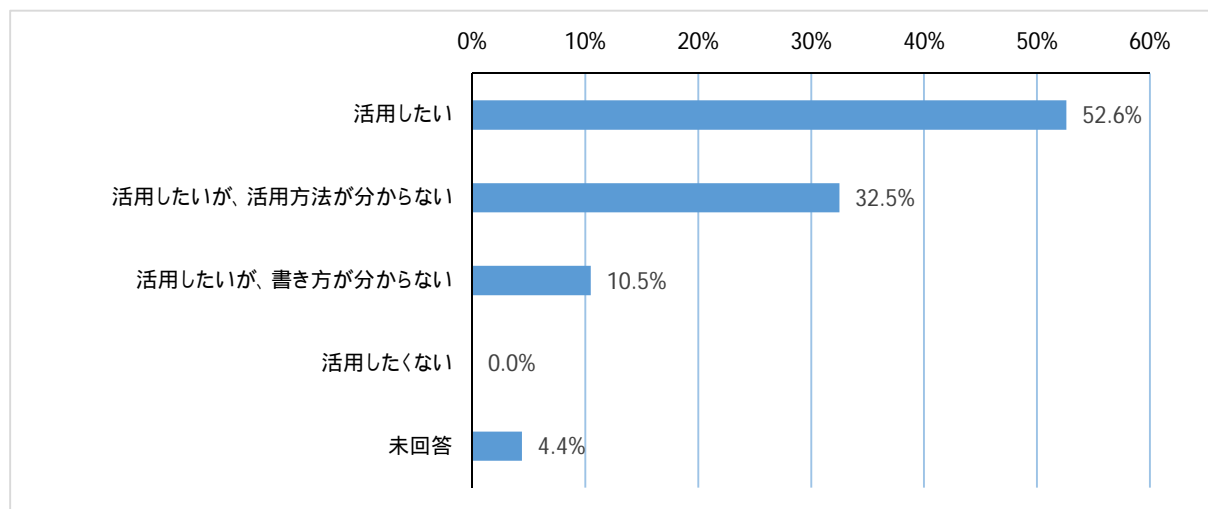


図表 2 - 1 2 b その他の自由記載欄 (主な意見)

あまりページが多すぎても確認や記入が大変です。
幼稚園の中で、どんな内容でどこまで情報共有されているか分からない。
知りたいことがのっているなら、ページ数は問いません。

問 13 生活場面が新たな環境に移る時(移行時期)の引継ぎの際に、決まった書式の情報共有ツールがあれば活用したいですか。(複数回答)

図表 2 - 1 3 a 活用希望



(n = 114)

図表 2 - 1 3 b 自由記載(主な意見)

一回一回親が口頭で1～10まで説明してきましたので情報共有ツールがあれば望ましいと思います。

以前作成したときに発達支援の先生からサポートブックの修正が多くありました。(サポートする人にとって分かりやすく修正されていました。)書き方の見本やアドバイスをもらえるなどあればいいと思います。

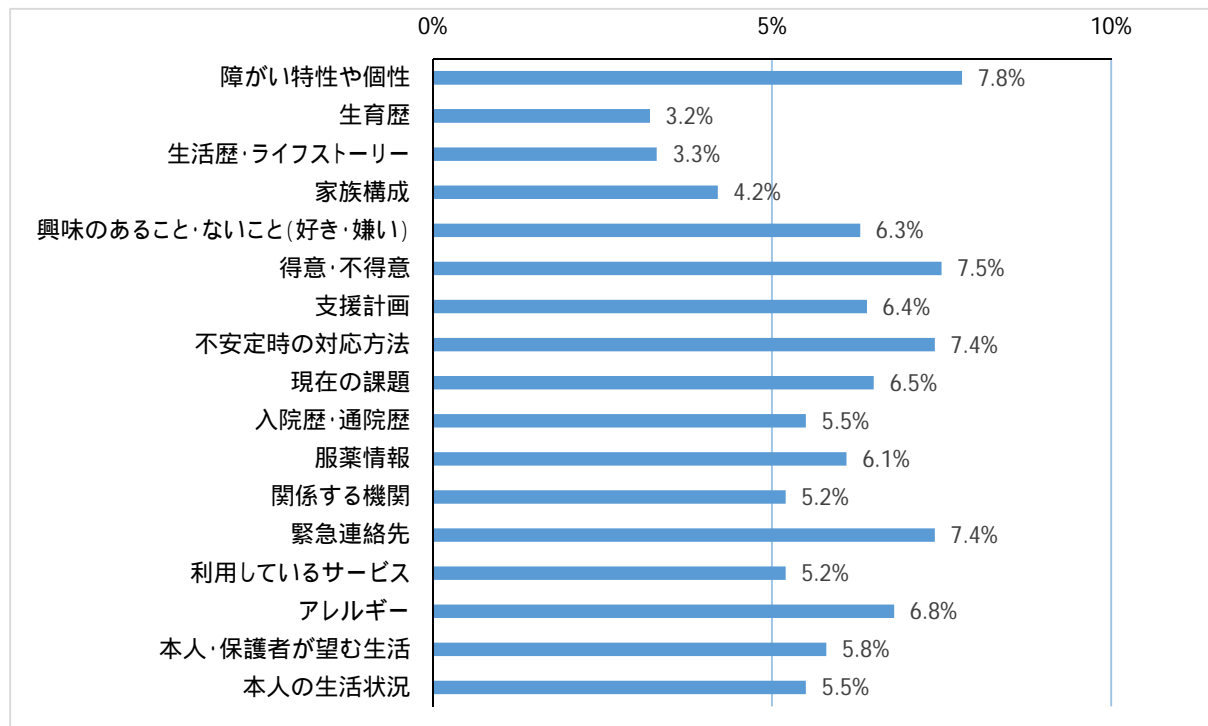
保育園から小学校に上がる時、区役所内でのこどもに関する情報の引継ぎが皆無で、担当の方に今までの経過を一から全て説明しなければならなかった。

発達障がいの子を育てるうえで、情報共有は大切だと思いますが、幼稚園、児童発達支援の事業所を利用する際、小学校の入学相談をする際など、1つ1つの機関独自の書式のものに情報をまとめていくのはかなり大変です。電子的なものでも、紙媒体でもよいので、「これ1冊」というものを作ってもらって、違う機関でも同じ情報を共有できるツールを作ってほしい。

公式の機関のサポートブックが当然のように使用される社会になって欲しい。

問 14 生活場面が新たな環境に移る時（移行時期）の引継ぎの際に、どのような内容・事項の情報があれば役立つと思いますか。（複数回答）

図表 2 - 1 4 a 引継情報



(n = 5,045)

図表 2 - 1 4 b その他の自由記載（主な意見）

保護者はどの時期に何を取り組み始めたらいいか、情報一覧等、どこをチェックするとい
いのかを、早い段階から知らせてもらえるとありがたいです。
学校に進学する時など障がい特性や個性、得意不得意、興味のあることなど伝えておくこ
とで、本人も安定した生活ができていたように思います
「生育歴」「生活歴・ライフストーリー」「本人の生活状況(ウィークリープラン)」は言葉
の意味を知りません。

その他発達障がいのある方への支援の引継ぎに関して、ご意見等をご自由に記載ください。

図表 支援の引継ぎに関して（主な意見）

幼稚園前、幼稚園入園、小、中、高・・・と、ライフステージというか所属が変わるたびに支援がブツ切れにならないようにしてほしい。その子の成長を長いスパンで見えてくれる支援機関が必要です。

学校や回覧板と、周りの方でも目に入り情報がわかりやすい様に発達ノートの掲示があれば、もっと周りの方の理解が深められ、引継ぎも気持ちの面で親の不安が軽減されると思います。

幼稚園～小、中、高と紙面による引継ぎを義務付けていただければもう少しスムーズに支援が進むのではと思います。先生方が忙しいのはわかりますが、得意、不得意、好きなこと、嫌いなこと、パニックにならない環境づくりや対応など、一般生徒の調書には無い項目も足して。「プライバシーの侵害になるから申し送らない」という認識の先生もいましたが、学年、担任が変わるたびに、同じ内容を書いて、同じことを繰り返しお願いするのも親の負担は大きかったです。

最近の充実ぶりに比べて現在成人期に達したものは、高年の者ほど引継ぎに関する恩恵が乏しかった。今後の成人期発達障がい者に対する支援の一層の充実を望みたいです。

支援者が変わってもスムーズにサポートできるよう配慮してほしいです。

保護者はどの時期に何を取り組み始めたらいいか、情報一覧等どこをチェックするといったのを早い段階から知らせてもらえるとありがたいです。

役所と他の支援機関との間で、情報共有をより多く行うようにしていただきたい。

その他発達障がい者支援全般に係る内容において、ご助言等ございましたら記載ください。

図表 発達障がい者支援全般にかかる助言等（主な意見）

情報を知ることが難しいように思う。色々な情報をもっと知りたい。

うちは19歳で初めて診断を受けました。分からなかったので何もしてこなかった（普通の子育てはしましたが）ので、そういう家庭に呈しての「発達障がい者への働きかけ」みたいなレジュメがほしいです。

区役所にいる相談支援員さんも学校のことをあまり知らなく、具体的アドバイスももらえないこともあります。区、学校、放課後デイとそれぞれ子どもに関わってくれていますが、横のつながりがなく情報を共有してもらえると助かります。

サポートファイルなど情報の共有するためのツールがあることをこのアンケートで初めて知りました。子供が春から小学校へ上がることもあり、今の状況を引き継ぐべきなのかどうか今まさに悩んでいるところだったので強く関心を持ちました。

一方で子どもはグレーゾーンだと言われ、現在問題行動も落ち着いていることから引き継ぐことによりデメリットが生じないか悩んでいます。

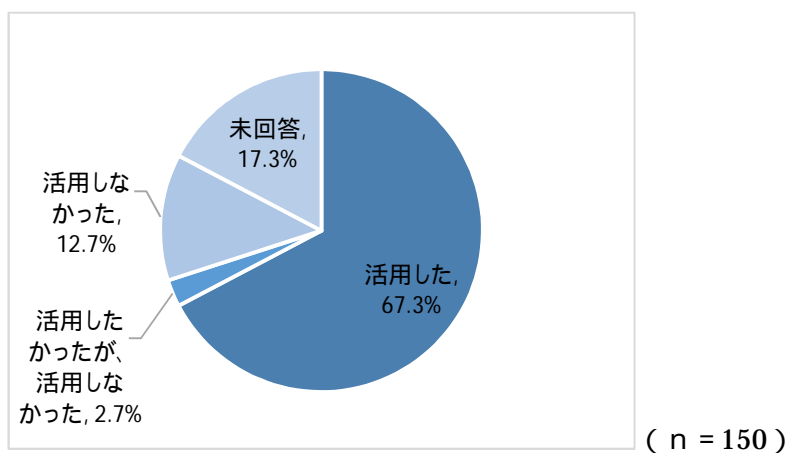
私共の子どもはすでに30才を過ぎています。支援の引継ぎが子どもの小さい頃からあればよかったのと思う。これから将来（親の亡き後等）にも大切なことなので情報共有ツールのことを今回初めて知り、できれば利用したいと思う。

3 事業所に対する調査結果（抜粋）

問 10 事前に情報共有ツールで情報提供があった場合、活用することはありましたか。

（単一回答）

図表 3 - 1 0 a 活用の有無

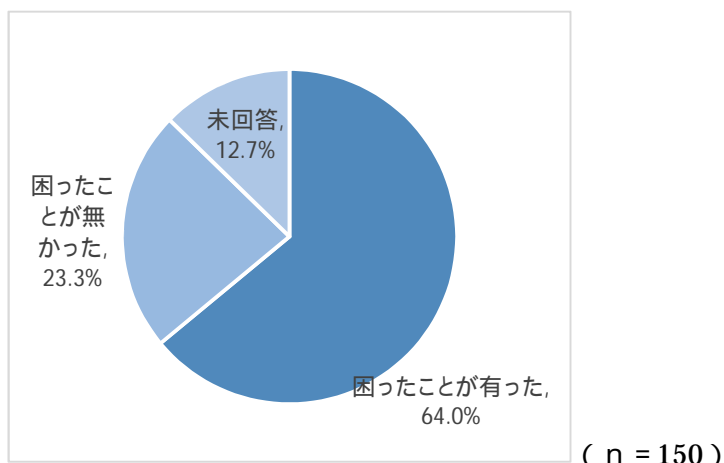


図表 3 - 1 0 b 活用しなかった理由（主な意見）

情報提供がなかったため
直接家族と話しをする方が早かったため。
家族が持っていなかった。

問 11 事前に情報提供がなかった場合、困ったこと等の有無をお教えてください。(単一回答)

図表 3 - 1 1 a 困ったこと



図表 3 - 1 1 b 困ったこと、困らなかったことの状況・原因等(主な意見)

どのような子どもの姿かわからない。今までの対応の経緯がわからない。その子の特性が分かるまでに時間がかかりその間適切な支援ができない。

特性把握に時間を要し、的確かつ有効な配慮が困難となる。特に体調に影響を及ぼす場合は事前情報が不可欠である。

その人に関する大切な情報が得られない場合は、一から情報を集めなくてはならず、正確な情報が得られるとは限らないので、適切な支援に繋がりにくい。場合によっては、家族との間に不信感を作り出してしまうこともある。

学校ではどのような対応をとっていたか、本人が混乱しないように関わるためにはどうするのが良いか、落ち着くツールや教材等があればもっと早く関係づくりに活用できた。

配慮が必要だと入園後、生活するうちに感じたが、加配をつけていなくてサポートが充分に行き届かないことがあった。

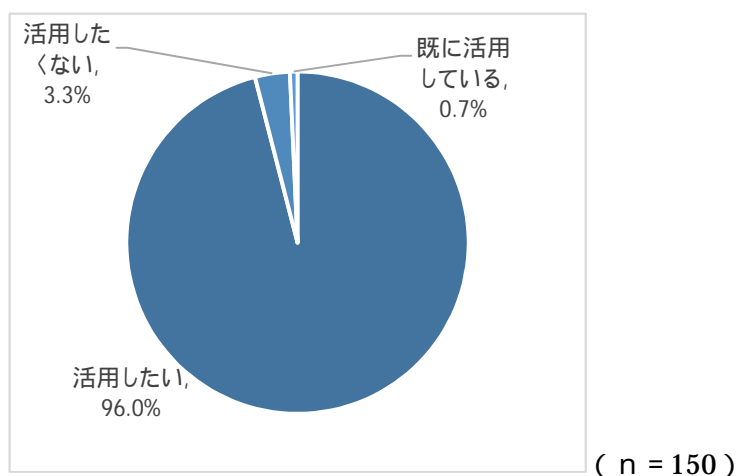
わからないこともあったが、日々様子を見ながら、保育を進めていった。

毎回の療育で、保護者様に直接話しを聞くことができるため。

当事業所でヒアリングを行った。

問 16 生活場面が新たな環境に移る時（移行時期）の引継ぎの際に、決まった書式の情報共有ツールがあれば活用したいですか。（単一回答）

図表 3 - 1 6 a 活用希望



図表 3 - 1 6 b 自由記載（主な意見）

ツールを作るだけでなく、活用する側が、何にどのように生かすかを意識しておく必要があると感じる。作りっぱなしで終わらないようにすることが必要。

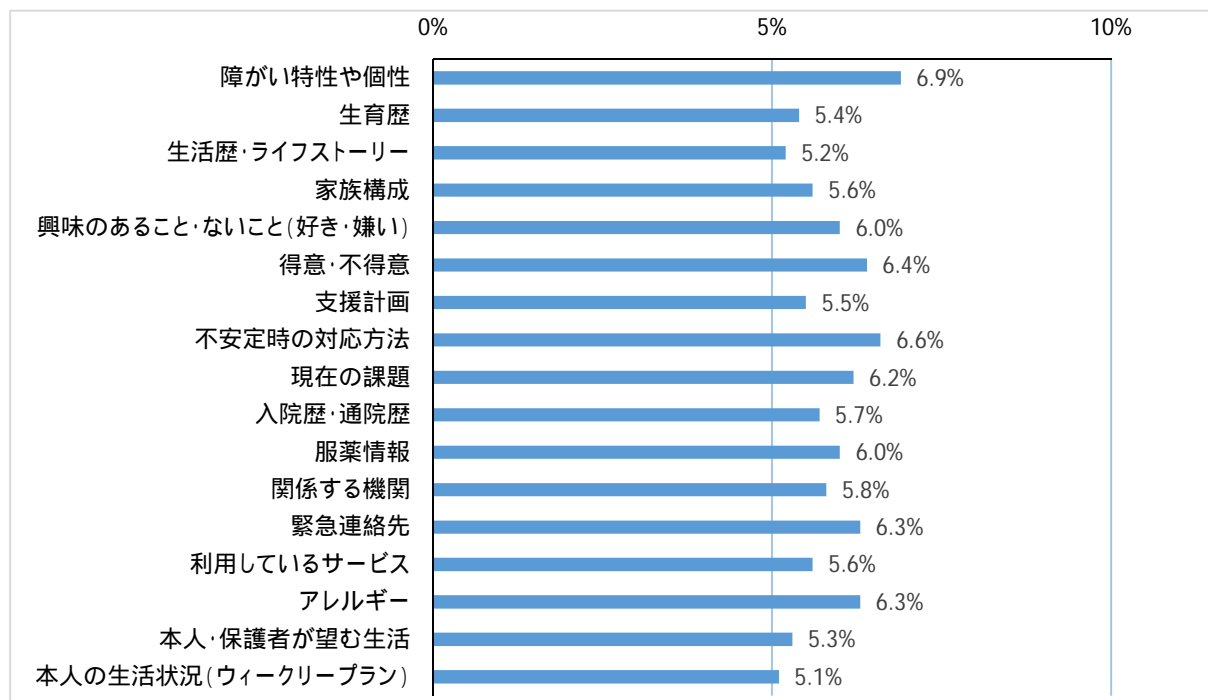
全てが統一されたものであり、理解が統一されていればとても良いと思うが、統一されていなくてもしっかりと引継ぎができていればそれでも良いと思う。

決まった書式があると利用者本人と事業所にとっても負担が少なくスムーズに移行できると思います。できればスマホ(アプリ)で活用できるとさらに使い勝手が良いように思います。

決まった書式の情報共有ツールがあれば、成長に伴って学校や施設や就職先で切れ目のないサポートができると思う。また、本人や家族も、成長とともに情報が足されていく書式であると、振り返りもしやすく「自分のこと」がわかりやすい。機関においても、書式が異なる情報提供を受け、次にまた異なる書式で情報提供を行うとなると、引き継ぎの負担が大きくなり活用がされない場合も出てくると思う。

問 17 生活場面が新たな環境に移る時（移行時期）の引継ぎの際に、どのような内容・事項の情報があれば役立つと思いますか。（複数回答）

図表 3 - 17a 引継情報



(n = 7,022)

図表 3 - 17b その他の自由記載（主な意見）

役立つ情報として、本人が困難な状況に置かれたときどんな行動をとるか、そんなときどのような配慮・支援が必要か「問題行動」の背景、そのことがよく分かるエピソード。できるだけ細かな情報があったほうが良いと思います。特に幼少期からのライフストーリーやストレングス、その時の支援方法等は問題や課題があった時に、支援を考えるうえで参考になります。

その他発達障がいのある方への支援の引継ぎに関して、ご意見等をご自由に記載ください。

図表 支援の引継ぎに関して（主な意見）

お互いに引き継ぐ前、後の様子を見に行く機会があればいいなと思います。
事前情報はとても大切だと思います。その情報を得たうえで、日々の関わり方や個別支援計画を立てる参考になると思います。
その子の特性を含めた生活の様子を事前に情報共有することはその子が今後、施設を利用するうえでとても重要である。それが共通の情報共有ツールであるとより分かりやすく整理され支援のあり方も明確になっていくと思います。
ツールの種類が多すぎると、作るほうも読むほうも大変で、むしろ円滑な情報提供や連携の妨げになりかねない。どの機関や関係者でも、より柔軟にかつ統一的に使用できるツールがあるほうが便利だと思う。
保育所としては、伝えたいことはたくさんあり、支援方法でうまくいったこと、いかなかったことが参考になるかなと思い、引継ぎは重要だと考えます（全ては子どもたちが困らない為に）ただ、小学校への引継ぎに関して、実際に担当する教師に引き継ぐことが難しいため、情報共有ツールがあるといいと思います。
発達障がいは一人一人の対応の仕方が違うので、できるだけその子と関わる際の情報はある方がスムーズな『はじめまして』になると考える。保育所からは小学校へ要録と支援計画を送り、できるだけスムーズな小学校生活のスタートをしてほしいと考えているが、実際小学校では、受け取った情報以外に他に必要な情報はないのか等、意見交換したことがないので、役立っているのかわからない。
保育所から小学校、小学校から中学校・・・と機関から機関への引継ぎは行われているが、その都度その都度途切れてしまっているように思います。その子（人）の支援が途切れないようにすることが大切だと思います。このサポートファイルを見れば、どこに行ってもだれが対応しても同じ支援が受けられるようなものになればと思います。

その他発達障がい者支援全般に係る内容において、ご助言等ございましたら記載ください。

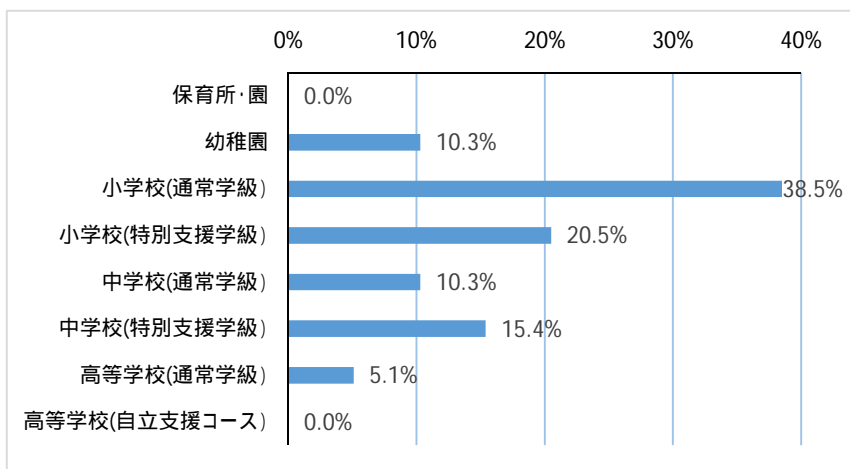
図表 発達障がい者支援全般にかかる助言等（主な意見）

幼児期、学齢期、成人期の支援に携わる支援者が、自らが関わる時期だけでなく、ライフサイクルを視野に入れた支援ができるように、時期時期でどんな支援が必要か、どのように何を引き継げばよいかを考えるような合同研修を企画してほしい。「行動障がい」「極端な自信喪失」等の問題は、そのような視点がないと解決しにくいと思う。
発達障がいも多岐に渡っています。新しい情報をどんどん取り入れないと支援の考え方が遅れたりするので常に学習ができるシステムは大切だなあと感じています。
発達障がいのある方への支援で、特に難しいのが支援を統一して行っていくことだと感じます。支援の統一もはかっていくためにも、細かな情報提要在利用されている事業所間で、適切に行われていくことが必要だと思います（個人情報の問題もありますが）。

4 市教育機関に対する調査結果（抜粋）

問1 貴機関の種類（複数回答）

図表 4 - 1

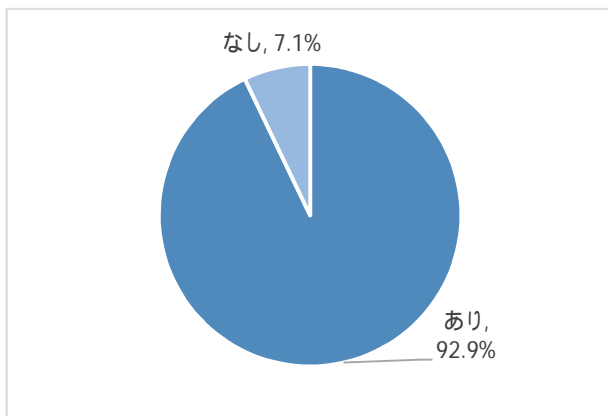


(n = 39)

問2 発達障がいのある幼児・児童・生徒（疑いのある方含む）が在籍していましたか。

（単一回答）

図表 4 - 2

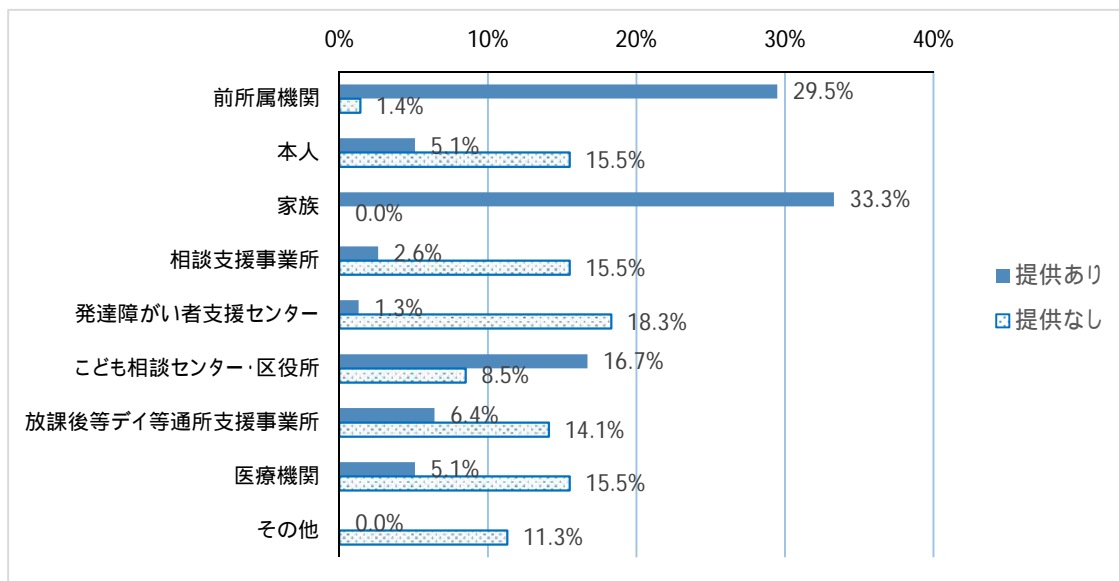


(n = 28)

問4 問2で「あり」にチェックされた方は、次の質問に回答をお願いします。

発達障がいのある幼児・児童・生徒（疑いのある方含む）が新たに就学することになった際、どのような機関から情報提供がありましたか。（複数回答）

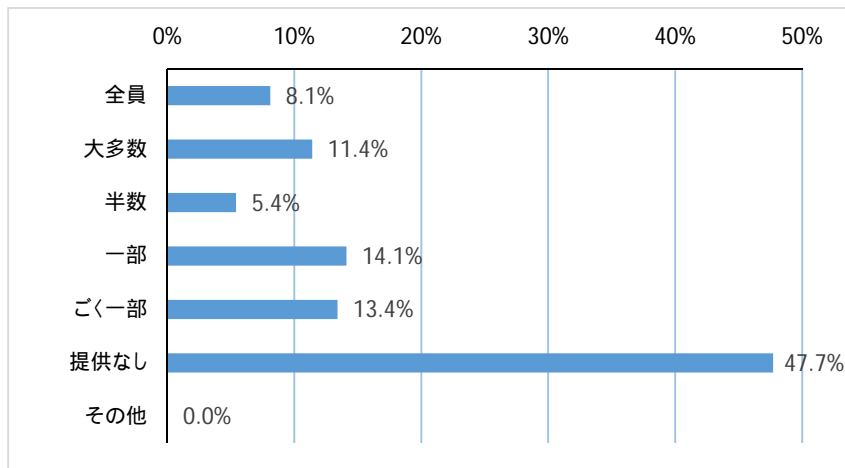
図表 4 - 4 a 情報提供元



提供あり (n = 78)

提供なし (n = 71)

図表 4 - 4 b 情報提供のあった人数

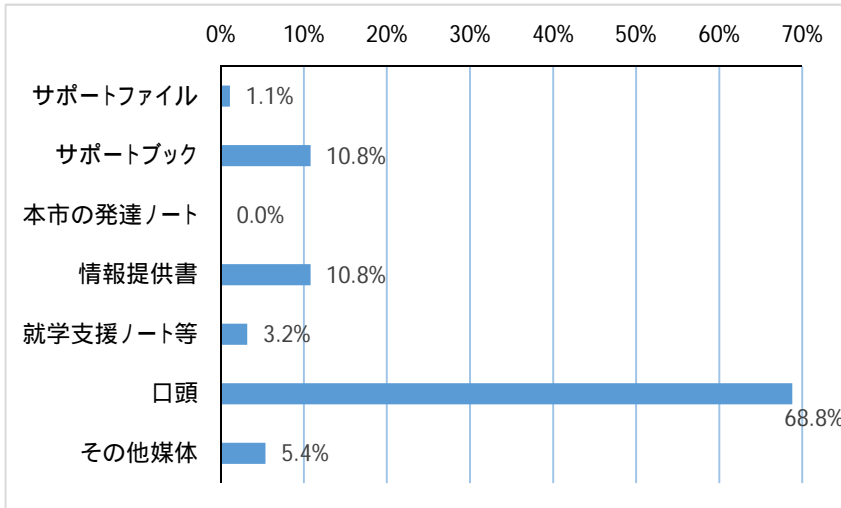


(n = 149)

問6 - 1 問2で「あり」にチェックされた方は、次の質問に回答をお願いします。

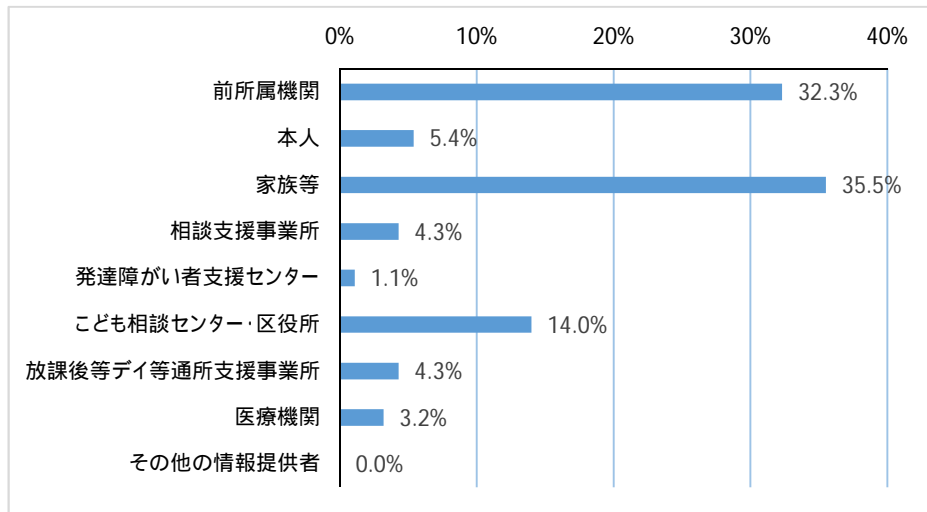
発達障がいのある幼児・児童・生徒（疑いのある方含む）が新たに就学することになった際、前所属機関・相談支援機関・ご本人・ご家族等から、どのような媒体（情報共有ツール）で情報共有・情報提供がありましたか。（複数回答）

図表 4 - 6 a 媒体、情報共有ツール



(n = 93)

図表 4 - 6 b 情報提供者



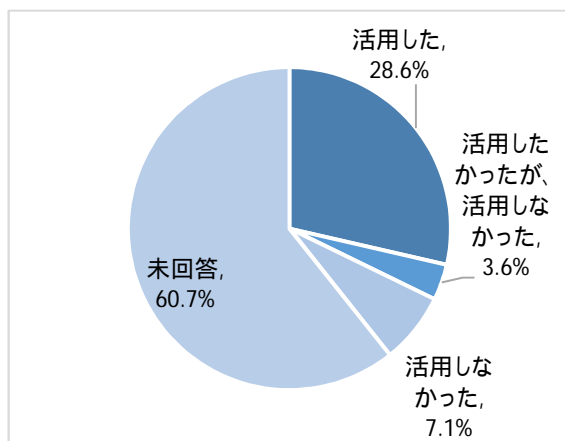
(n = 93)

図表 4 - 6 c その他の自由記載欄

個別の教育支援計画・個別の指導計画
保育要録
教育相談時に作成する「教育相談資料」

問9 事前に情報共有ツールで情報提供があった場合、活用するはありましたか。(単一回答)

図表 4 - 9a 活用の有無



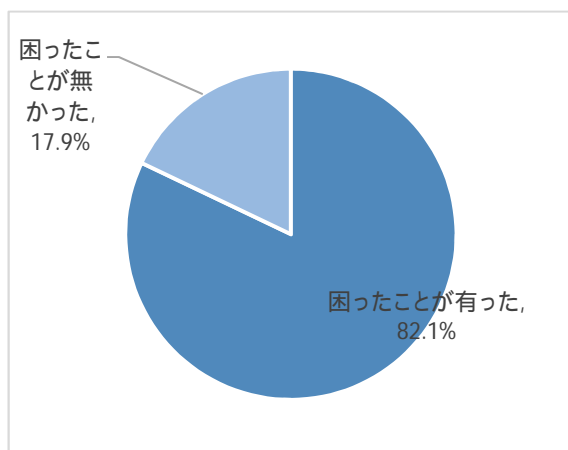
(n = 28)

図表 4 - 9b 活用しなかった理由

情報提供がなかったため
情報共有ツールよりも実際に教員が家族からの面談での聞き取りや本人の様子を見た方が具体的でわかりやすかったため。

問 10 事前に情報提供がなかった場合、困ったこと等の有無をお教えてください。(単一回答)

図表 4 - 1 0 a 困ったことの有無



(n = 28)

図表 4 - 1 0 b 困ったこと、困らなかったことの状況・原因等 (主な意見)

「困ったことがあった」と回答した人の意見

保護者に子どもの実態や行動を理解してもらい、支援を他機関へ広げることが難しかった。

特に発語のない幼児の場合、本人が何に困っているのか。どんなサポートを望んでいるのか教師がわからない。結果パニックになったり動けなくなったりする。

初めての集団行動で見えてくることがあるので、困るというのは少し違うが、本人が困っている、不安になっているときの具体的な対応が、探りながらになる。年齢的なものも含めて、まだまだ言葉では伝えられない子供が多い。

本人を取り巻く状況が見えにくかったり、特に疑いのある生徒については発見や理解に遅れが生じたりした。

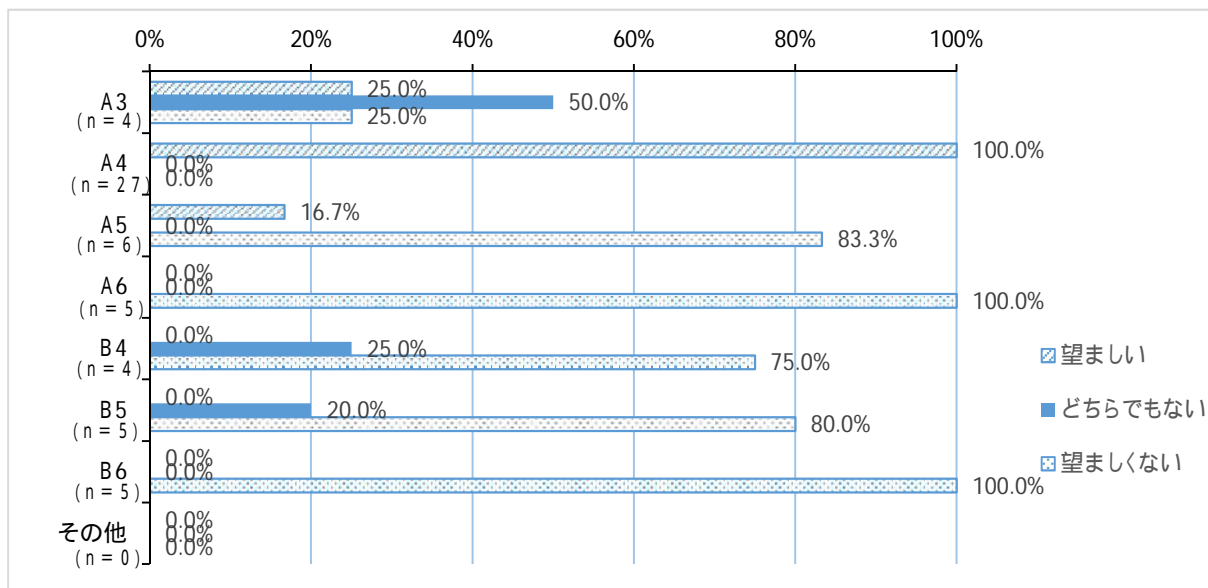
事前に情報提供がなければ、実態把握などに時間がかかる。

「困ったことが無かった」と回答した人の意見

細かく聞きとりを行ったため

問 14 就学・進学や転出入等の引継ぎの際に、使用する情報共有ツールの望ましい仕様・様式をお教えてください。

図表 4 - 1 4 a 1枚当たり大きさ（紙の場合）



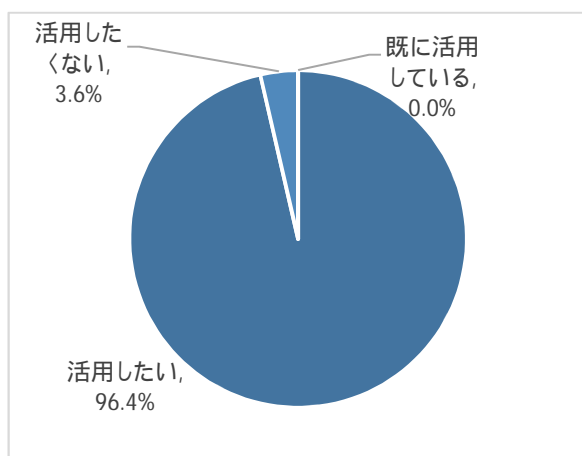
図表 4 - 1 4 b その他の自由記載欄（主な意見）

幼稚園では A4 数枚で十分だと思うが、それを確実に入学後にファイル等で綴り、引きついで行けることが望ましいと思う

必要に応じた枚数がよいと思うので、望ましいページ数はわかりません。ただ、情報量が多すぎても把握しきれないので、大事なところをまとめてあれば良いです。

問 15 就学・進学や転出入等の引継ぎの際に、決まった書式の情報共有ツールがあれば活用したいですか（単一回答）

図表 4 - 1 5 a 活用希望



(n = 28)

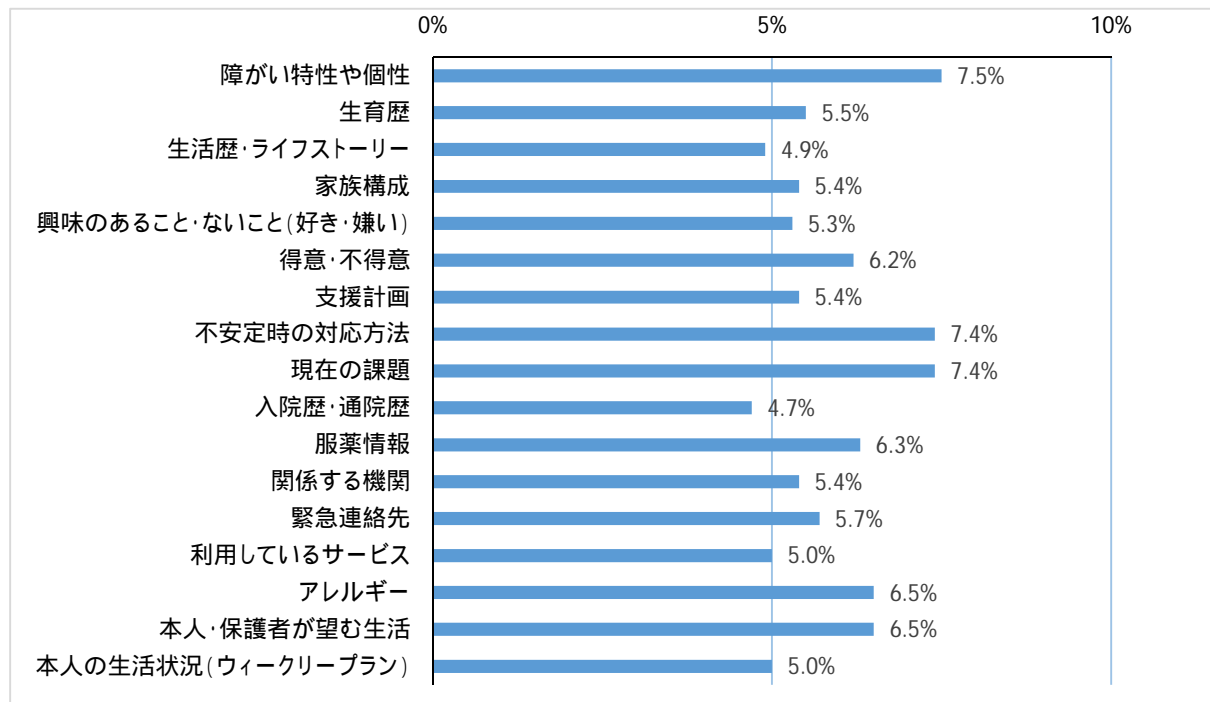
図表 4 - 1 5 b 自由記載（主な意見）

どの情報を引き継ぐべきかが具体的に明示されているので、引き継ぎ漏れがない。活用していきたい。

活用はしたいが、教員の負担とならないような形で。

問 16 就学・進学や転出入等の引継ぎの際に、どのような内容・事項の情報があれば役立つと思いますか。(複数回答)

図表 4 - 1 6 a 引継情報



(n = 742)

図表 4 - 1 6 b 自由記載(主な意見)

デイサービスや児童が関わっている関係機関については、直接話すことはほとんどないので、保護者からの情報でしか知ることはほとんどありません。

その他、障がいのある幼児・児童・生徒に係る支援の引継ぎに関して、ご意見等をご自由に記載ください。

図表 支援の引継ぎに関して（主な意見）

引継ぎの際にどこまで情報を伝えたらいいのかわからない（個人情報に関わるから）

学校では、個別の教育支援計画と個別の指導計画を書くように言われている。いろいろな書類が舞い込んで事務作業が増えるのはやりにくいとを感じる。実施するのであれば、教育委員会と連携をとってほしいです。幼稚園から就労まで一本化すれば、いいと思うが、渡すのをどのようにするかは分からない。データではほしい。また、途中から支援が必要になった場合は、どこまでさかのぼって書くのかなど課題はたくさんあると思います

教員はじめ現場の負担とならないような形で且つ効果的な引継ぎ方法を切に望む。

些細な事でも、児童や生徒に関する課題や発見がある場合は、記録に残し、引継ぎをする必要があると思います。

就学前施設からの引継ぎは、ずいぶんオープンになってきているので、入学後の支援に役立てることができている。ただ、個人情報であると入学後必要な情報の引継ぎに及び腰の施設も散見される。

幼稚園から小学校への引継ぎは、対面で3月に丁寧に行っても、人事異動でお互いにいなくなるがあるので、必ず紙ベースで支援計画を引き継ぐようにしている。特別支援教育コーディネーターか管理職が窓口になり1学期～夏頃に様子を尋ねたり参観に行くように努めている。

その他発達障がい者支援全般に係る内容において、ご助言等ございましたら記載ください。

図表 発達障がい者支援全般にかかる助言等（主な意見）

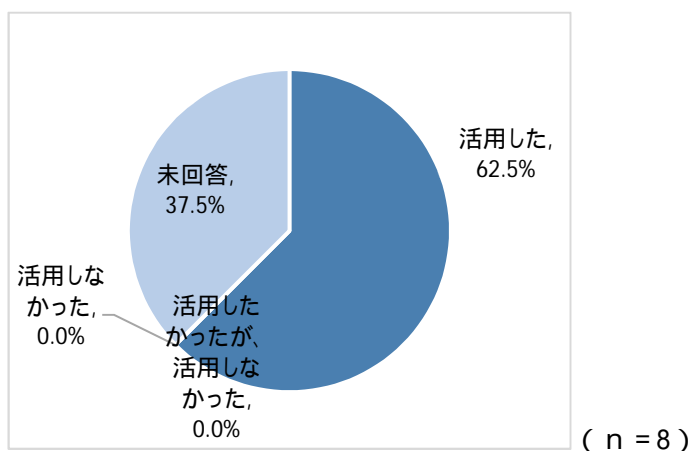
関心の高い保護者は、就学前に専門機関や医療機関に相談に行き、特性などを理解している。その結果、教育相談で引継ぎを丁寧にできるので、特に問題は無いと考えられる。課題があるのは、まったく情報がない子どもである。

5 府立支援学校に対する調査結果（抜粋）

問6 事前に情報共有ツールで情報提供があった場合、活用することはありましたか。

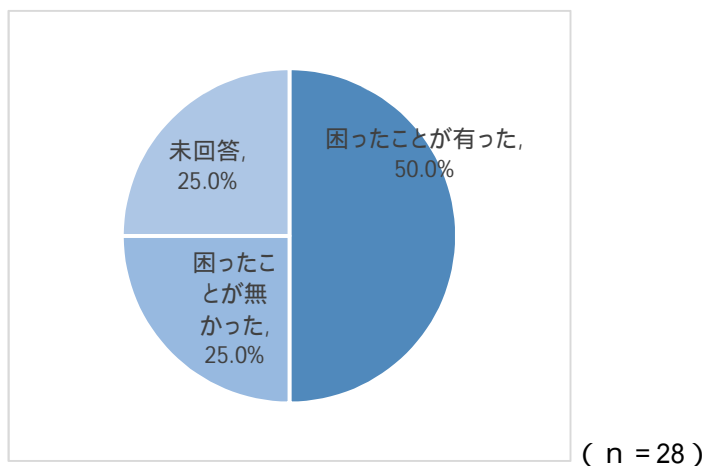
（単一回答）

図表 5 - 6 活用の有無



問7 事前に情報提供がなかった場合、困ったこと等の有無をお教えてください。（単一回答）

図表 5 - 7 活用の有無



図表 5 - 10b 困ったこと、困らなかったことの状況・原因等

生徒の背景が分からずに適切な指導に時間がかかる。

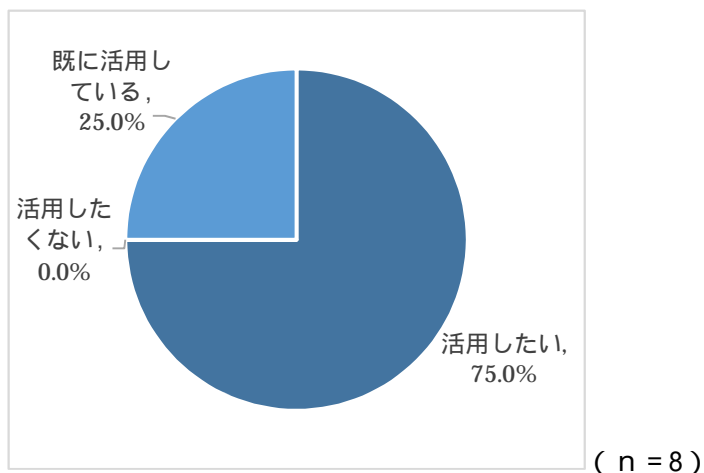
児童に対する支援方法に、前所属機関（幼稚園、保育園等）との違いが生じることがあった。

保護者、前所属機関に事前に持参をお願いしていた情報提供資料を忘れてこられた場合、就学相談の限られた時間内に、確認事項が増え、肝心の話に使える時間が減ってしまう。

それまでの卒業アルバムがなかった。

問 12 生活場面が新たな環境に移る時（移行時期）の引継ぎの際に、決まった書式の情報共有ツールがあれば活用したいですか。（単一回答）

図表 5 - 1 2 a 活用希望



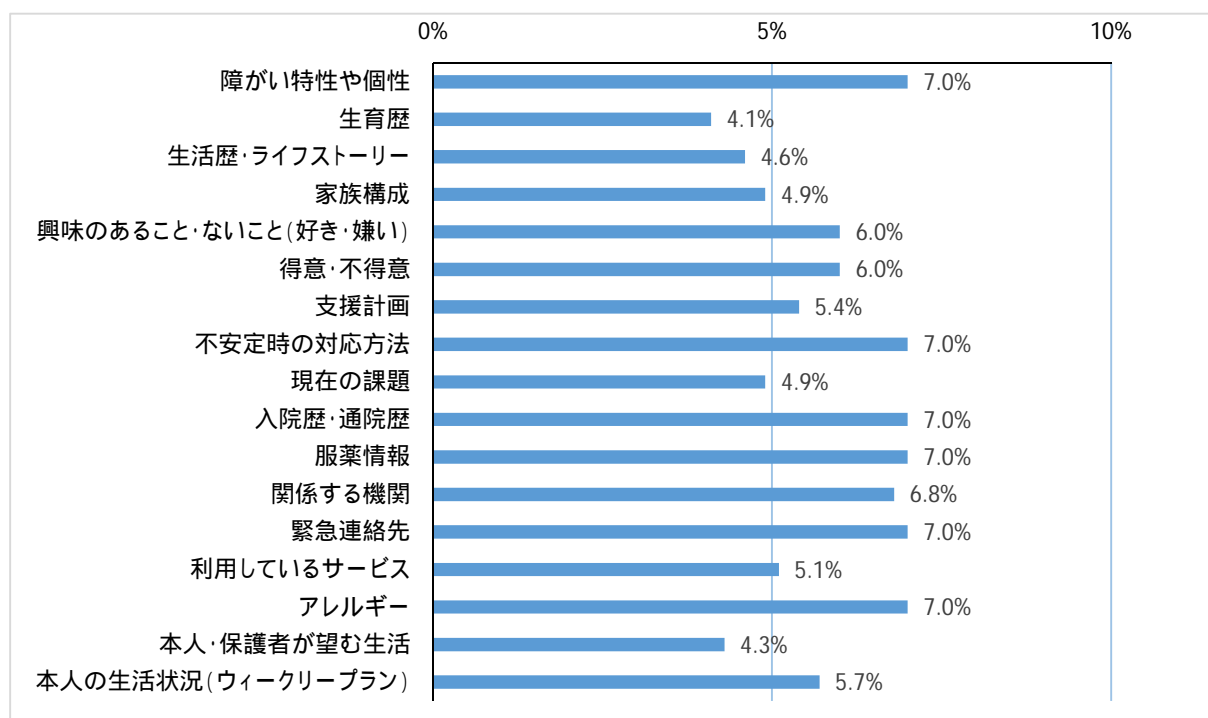
図表 5 - 1 2 b 自由記載

決まった様式が果たして必要かどうかはわからない。ケースバイケースで必要な情報が変わってくる。またツールを作成することに膨大なエネルギーが割かれることを危惧する。受け取る側の知りたい情報が載っていない場合がある。

各ステージで記載内容が変わってくる中で、統一書式の作成が可能であれば活用したい。個別の教育支援計画が、情報共有のための必要最低限のツールだと考えており、その意味で、本校では引継ぎに活用していると考えた。

問 13 生活場面が新たな環境に移る時（移行時期）の引継ぎの際に、どのような内容・事項の情報があれば役立つと思いますか。（複数回答）

図表 5 - 13 引継ぎ情報



(n = 369)

その他、障がいのある幼児・児童・生徒に係る支援の引継ぎに関して、ご意見等をご自由に記載ください。

図表 支援の引継ぎに関して

検査結果などあればいいと思う。

支援機関等の中で引き継ぐ際、その「情報共有ツール」をどういう手段で渡すか。

高等部卒業後に利用する事業所のほうから、生徒の情報提供を求められることがあるが書面で情報提供することは現在行っていない。保護者のほうに移行支援計画をお渡ししているので、そちらを活用していただくことにしている。また本人が在学中に、来校していただき、実際に授業を見学していただいたり、担任から口頭で日ごろの様子をお伝えしたりして情報提供している事業所もあります。先方からの情報提供の依頼がないと行っていない状況です。

支援に関わる引継ぎ資料は、文章表記での書面になっていることが多いが、発達してきた状況や残っている課題の状況を表やグラフといった視覚的にとらえられるものを利用したものとの組み合わせで伝えられると一層伝達力が増すように感じている。

その他発達障がい者支援全般に係る内容において、ご助言等ございましたら記載ください。

図表 発達障がい者支援全般にかかる助言等（主な意見）

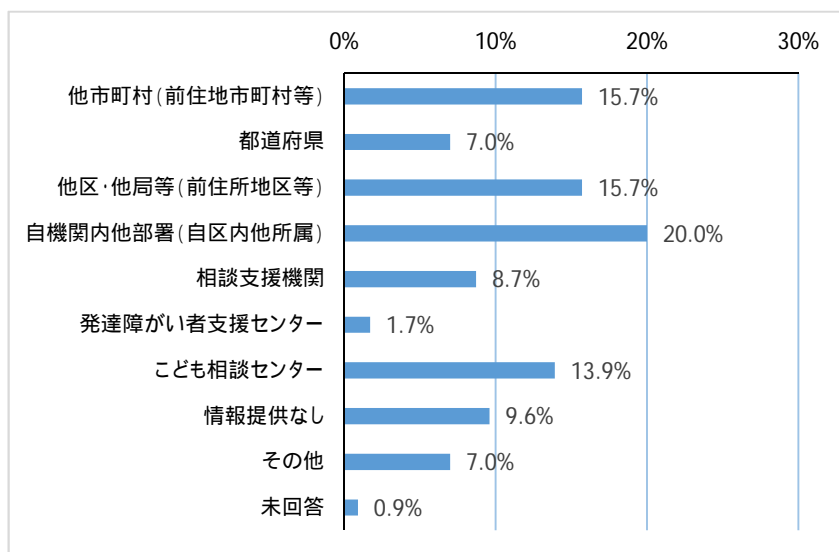
支援者間で様々な情報を共有できることは良いと思う。しかし、支援機関等との情報なので、引き継いだ側がその情報をもとに保護者に安易に話すことでトラブルが起こることのないよう、対策が必要。

障がいのある児童生徒の個々の障がい特性や生育歴、性格を知り、個別に支援していくことは重要であるが、社会の一員としてどのように生きていけるのかを考えると、単に個別の支援ではなく、集団の一人としての個別の支援をより一層充実させていく必要がある。

6 公共機関に対する調査結果（抜粋）

問1 他機関（前住地機関、利用施設等）等から、初めて貴機関への相談等に際して具体的な情報提供がありましたか。（複数回答）

図表 6 - 1 a 情報提供元機関等



(n = 115)

図表 6 - 1 b 自由記載（主なもの）

医療機関

保護者

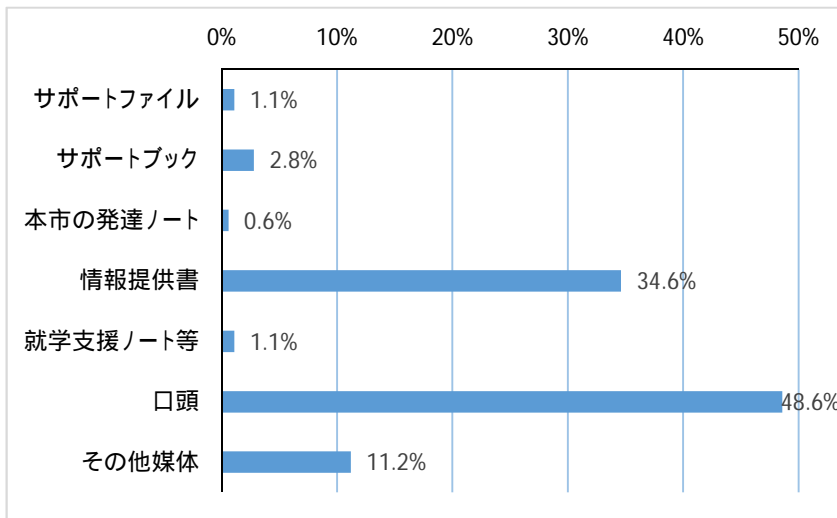
他の自治体を管轄する児童相談所

初めて来られる方が多いので、殆ど他からの情報提供はない。

問2 - 1 問1で「情報提供なし」にチェックされた方以外は、次の質問に回答願います。

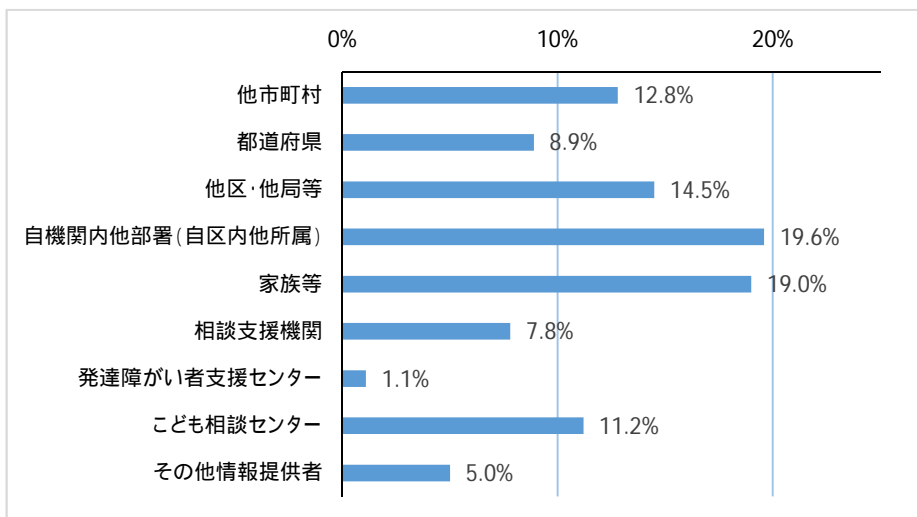
貴機関への相談等に際して、他機関・相談支援機関・ご家族等からどのような媒体（情報共有ツール）で情報共有・情報活用がありましたか。（複数回答）

図表 6 - 2a 媒体、情報共有ツール



(n = 179)

図表 6 - 2b 情報提供者



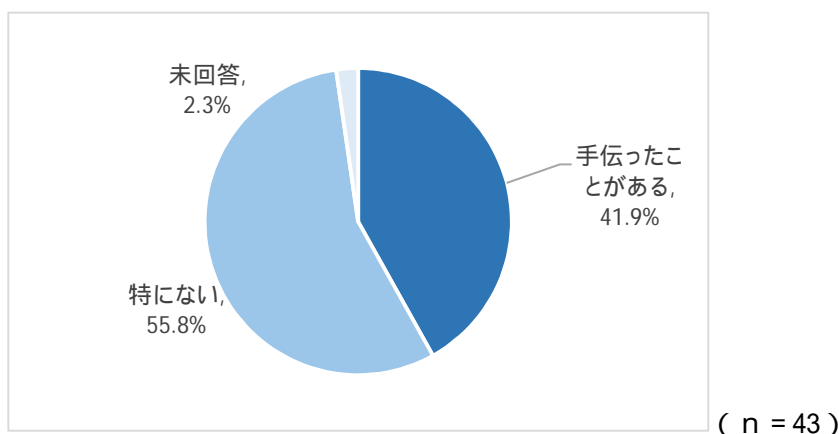
(n = 179)

図表 6 - 2c その他の自由記載欄（主なもの）

医療機関の診断書、診断情報提供書、心理検査記録
 自機関内は相談依頼書
 口頭

問3 - 1 貴機関で情報共有ツール作りや記入について手伝われたことがありますか。

図表 6 - 3 支援の有無



問11 サポートファイル・発達ノート等の情報共有ツールを活用し、支援の引継ぎを円滑に進めるために必要なことは、どんなことがあるとお考えですか。

図表 支援の引継ぎに関して（主な意見）

サポートファイル、発達ノートについて、あまり知られていないので、まずはこれらの物をすべての人に認知してもらう必要があるのではないかと思う

サポートファイル等の存在がまだ知られていないので、早い段階で、一緒に記載する研修等が必要。また、支援者に向けての研修も必要と考える。

情報共有ツールの存在を周知徹底する。作成に当たってのサポート。医療機関、幼稚園保育所、学校、支援センター、子ども相談センター、行政機関(乳幼児健診での案内など)で、一緒に作成できる人を用意する。または、作成方法を伝える講座をひらく。

情報を伝えることも重要であるが、ツールを介して共に連携できる機関としての認識が出来れば単機関で対応に悩むこともなくなると思います。

支援者の理解力と想像力

移行時期によって、本人に求められる態度や身に付けたい力は異なり、必要な配慮や支援も異なること

理想像はあるものの、できる支援について実現可能な範囲のすりあわせが必要であること
年齢が大きくなるにつれて、本人の自己理解が非常に重要になること

等、情報共有ツールを有効に活用するためにはそれぞれの立場を理解したうえでの工夫が必要と考える。

周知の不十分さが課題の一つであるが、発達障がいのみ視点ではなく、発達全般の記録として捉え、母子手帳等周知度の高いツールを有効活用し、母子手帳の中に記載すべき情報を入れ込むなど、出生からスタートする支援ツールという位置づけをすることで周知度を高めることができないか。

保護者の中には何らかの困難を抱え、情報共有ツールを活用できない人がいるため、保護者による支援情報の構築だけでなく、公的機関での関与を統一した媒体により学校へ引継ぎをし、小学校1年生、4年生等一定の年齢で支援方針の見直しを行い、就労支援機関への情報提供をする等の仕組みで対応することはできないか。

その他発達障がい者支援全般に係る内容において、ご助言等ございましたら記載ください。

図表 発達障がい者支援全般にかかる助言等（主な意見）

サポートブック等で引き継ぎがスムーズにできることは、関係機関及び発達障がいのある方にとってもプラスになることだと思います。

しかし、文章は書く人と読み取る人でニュアンスが変わってくることもあるので、会議等面談の場を設定して説明していくことがより丁寧だと思われます。

発達障がいのある方の真のニーズを見極めることが大切だと思われます。

幼少期からの支援が不十分であったり、地域社会での理解が得られないことによるトラブルが生じ、支援が困難を極めている事案もある。現状は希望者のみが研修を受講しているが、学校園など児童を支援する可能性のある職員すべてが知識だけでなく具体的な支援方法を習得ができるようなシステムづくりが必要ではないか。また、保護者だけでなく地域で生活するためには同年齢の児童を持つ保護者の理解を得ることも必要であり、1歳半健診や3歳児健診受診の保護者には一定の発達にかかる研修を受講できる仕組みができないか。

サービス未利用で保護者もサポートブック未作成の児童が18歳到達した場合に引き継ぎが全くないまま社会に出てしまうため、そのような場合の支援についても検討が必要と考える。